

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人嘉悠会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268		
自己評価作成日	令和4年 9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年 10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームという生活空間の中で、ご利用者お一人お一人のこれまでの生活習慣を尊重し、それを踏まえて役割・活動への参加を促すことで、自立支援への働きかけを行っています。併設した小規模多機能型居宅介護事業所かしまスマイルとのグループシナジー効果により、定期的な運動やレクリエーションの提供、季節に応じたイベント、個人に合わせた作業活動も行っていきます。また、最近では新型コロナの影響で屋外活動制限はあるものの、地域の運動会見学や足手荒神祭への参加など地域資源を生かした地域交流も日頃から行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の「利用者本位」の理念を継承し、合同会議や朝の体操、レクリエーションを通じて併設する小規模多機能事業所と共同で入居者支援に邁進している。管理者は縁あって入職した職員に長く在職してもらいたいとして、希望休や有休取得、残業への配慮、夜勤後のスムーズな退室など定着率を更に進め、動きやすいホーム環境の整備を行っている。最期の看取りはしない方針であるが、グループホームの特性を生かし、入居者同士のゆっくりした時間や職員との関わり、得意分野が活かせる趣味の後押し、男性職員のカレーの日など日々繰り返されるあたり前の日常を大切にしたいとしている。地域交流がままならない時期ではあったが、ユーチューブを活用し、地元の神社の祭りや水の里”かしま”ならではの天然プールの映像を見られた時には、入居者の顔が一段とほころんだとのことである。状況を見ながら少しずつ地域へ出る機会を検討しており、今後も地域に親しまれるホームとして運営展開されることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「利用者本位」の精神を大切にしながら、GH康寿苑の理念でもある「地域の方々とのあいふれあい」を大切にしていますが、この2年は新型コロナの影響で地域との交流機会は減っています。	『利用者本位～常に相手の立場に立って』の精神を受け継ぎながら、地域密着型事業所として地域交流の重要性をホーム理念に謳っている。理念は入居開始時に重要事項をもとに家族に説明し、入職者には理念を通じてこれまでのホームの歩みを伝えている。運営推進会議資料に添付し、理念に基づき年間の事業計画を報告することで参加者の理解を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会やサロンへの参加を計画していたが、新型コロナの流行により、外出自体が難しい状況であった。ただし、流行期以外に外を散歩したり、小学校の運動会を見に行ったりなど無理のない範囲で少しずつ交流を始めている。	二年以上に渡る感染症の影響が地域とのつながりを希薄にしていると話している。広大な庭からは近隣の馴染みの家々を眺め、入居者は敷地内を歩いたり、隣接する神社へは盆、正月などの節目にも出かけている。今年は徒歩圏内にある小学校の運動会を入口から見学するなど、少しずつ地域の中に出る機会を作っている。	状況を見ながら地域サロンの参加を再開したい考えであり、地域交流の一つとして実現が待たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で外部との交流は難しいものの地域の老人会に参加し、地域の高齢者に健康上のアドバイスを行ったり、運営推進会議の中で事例報告を通して、認知症ケアに関しての支援を話したりなど行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で事例報告を行ったり、今年度運営方針の報告や新型コロナ対策・現状の報告を行い、事業所の取り組みを報告し、それに対しての意見を委員の方々からいただき、運営に生かしている。	推進会議は行政関係者や地域の代表者、家族などが参加して併設する多機能事業所との合同会議としている。両事業所は長いワンフロアの造りとなっており、朝の体操や行事を合同で行い、日々連携を取りながらの生活である事などを発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の代表の方を委員として呼び、協力関係も築けている。来月11月25日には実地指導を予定し、ご意見を聞く予定。	行政からの運営推進会議への参加によりホームの現状を共有し、運営上の助言や提案を得ている。管理者は行政担当者との実地指導に対応し、より良い関係に作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回、身体拘束廃止及び高齢者虐待についての勉強会を法人・事業所それぞれで行い、職員の理解を深めている。	年間の研修計画に則り、法人研修や多機能事業所との合同勉強会で身体拘束について共有し、共通認識を持っている。長年の関わりや同地域からの知り合いである入居者と職員の関係性など、馴染みであるが故に一線を持つ事が大切であるとして特に心掛けるようにしている。センサーマットの利用者については、家族への事前説明と同意を得ており、状況報告を行っている。	ホーム内は和気あいあいとした雰囲気の流れしており、今後も入居者との関わり方について、互いに声を掛け合うなど注意喚起も必要と思われる。また、身体拘束の指針を他の書類同様、玄関に掲示することでホームの方針を発信されるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の通り、勉強会を実施し、高齢者虐待防止への理解を深めている。またアンガーマネジメントの勉強会なども行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護の勉強会や話し合いをミーティング等で行い、啓蒙に努めている。成年後見制度の利用はなく、学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新型コロナの流行する中、見学と契約の二回、ご家族に来苑していただき、こまやかにサービスや料金などの疑問や不安に答えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見・要望は日々の生活の中で聞き、ご家族には面会や担当者会議の際に意見・要望を聞き取り、それを運営に汲み取っている。	家族会等の集まりが制限される中で、電話や面会などを中心に意見や要望を聞きとるようにしている。入居者の要望は日々の暮らしの中で収集し、会話の中に季節の花などを盛り込み、地元のひまわり畑やコスモス見学に出かける等、興味のある事を引き出しながら普段の生活に取り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、合同ミーティング内で意見や提案を行える時間を設けたり、日々の業務の中で意見を聞くように心掛けている。	多機能ホームとの合同ミーティングで意見のすり合わせを行っている。互いの情報を共有して業務過多にならないように夜勤明けも終わり次第退室するようにしており、夜勤専任者自身が職員の一人として夜間帯の入居者の細かな情報を申し送り職員との関係が取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や病気の際の長期休暇などの取得も行いやすく、働き方などの相談も随時受けつけ、その人にあった働き方の提案も行っている。 (〇勤務が良い・・・など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の勉強会スケジュールを組み、必要な勉強が行えるように働きかけをおこなうとともに、必要な人には外部の研修への参加を促している(認知症実践者研修など)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で外部交流会自体の参加は減っているが、当法人内のいろいろな事業所の職員とは法人勉強会や委員会等を通してグループシナジー効果を得ている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者は認知症をお持ちの為、ご家族、CMなどから情報を収集し、ご本人様からも生活の中で求められるケアを提供出来る様に働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前述の通り、契約前に見学をしていただき、その際にご家族の訴えを聞き、暫定ケアプランに反映させるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のほか、ご本人を取り巻く関係者の方々に意見を聞き、必要な支援を見極めてサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の家事における役割づくり(野菜の調理、選択たたみ、台拭きなど)を行い、お一人お一人の生活の充実を図っている。また作業などにも他のご利用者と取り組む事で関係構築も行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナもあり、一時期は面会謝絶を行っていたが、最近ではキーパーソンに限り、条件付きで面会を行っている。こういった状況下でも、ご家族とのつながりを大切にし、ご家族と支援するよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナのため疎遠になりがちではあるが、上記の通り、ご家族とのつながりは大切にしている。地域密着型であるため、ともに生活されるご利用者同士が知り合いの場合もあり、そういった絆も大切にしながら支援を行っている。	現在、家族との面会は窓越しで行い、入居者の表情を見てもらうようにしている。入居者同士や職員との関わりも馴染みのものとなり、ホーム生活や外出活動を通してより関係性を深めるようにしている。好きな歌をうたったり、地元で買い求めた花や庭先の草花を職員と生ける等個々の特技が活かせる場を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろなイベントや取り組みの中で、まわりのご利用者との関係を円滑にするように働きかけを行っている。性格・嗜好を念頭に置き、仲良く会話できるような働きかけも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられたご利用者のご家族ともその後も地域での交流を持つなど、同じ地域に住むもの同士、関係性を大切にしながら、相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族に聞き取りを行い、希望や意向の把握を行うとともに、3か月に一度生活の評価を行い、ご本人本位での今後のケアの在り方を検討し、ケアカンファレンスで提案している。	コロナ禍であり家族の意向は電話や面会時に聞き取るようにしており、入居時には得られなかった入居者情報が新たにプランに反映されている。入居者の思いは普段の関わりの中から引き出し、発語が難しい方には日常の行動から推察し、排泄について入居者自身が布パンツを望まれているのなら、失敗があっても布パンツで対応するなど本人の思いを優先している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報やご本人・ご家族からの聞き取りにより、その方のこれまでの暮らしを把握し、GHでの生活で生かす働きかけを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況は職員がケース記録に記録し、全員で状況を把握できるように周知徹底を行っている。またその方の心身状況は月に一度ケアカンファを行い、ADLなどの状況の把握もその都度行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケース記録に一日の状況等を記載し、ケアカンファでの話し合いで出た現状や課題を3か月の評価(モニタリング)に落とし込み、それを元にケアプランを作成している。	プラン作成にあたり計画作成担当者は初回のアセスメントから暫定で立案し、担当職員の声を反映しながら3か月ごとに評価、見直しを行い現状に即した内容としている。家族へは面会時に入居者の状況を交えながら説明し、情報収集の機会ともしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記の流れでご利用者の現状を把握し、職員全員で課題を分析し、次のケアプランに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する小規模多機能との取り組み(定時での運動やレク、イベントなど)を通して、GHの枠を超えた柔軟な支援を行っている。また高齢者でもあるので心身の状況に応じて求められることが変わってくるため臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の委員の方から地域資源を学んだり、近隣の方から教わることで地域資源を把握している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最初にかかりつけ医の希望をご本人・ご家族に聞き、ご家族の協力も仰ぎながら受診を行ったりする。そういった中で医療機関との情報交換も密に行い、ご利用者の健康管理に寄与している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、現在は、系列法人の医療機関により月1回の受診が行われている。専門医の受診については、ホームや家族など医療機関に応じて行っており、結果を共有している。管理者は口腔ケアの重要性を語っており、ホームでも職員間で支援内容を充実させ、必要に応じて訪問歯科を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアカンファで介護・看護ともに話し合い、必要なケア、医療を考え、必要であれば西村病院看護師とも連携し、適切な受診・看護の提供の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	口頭や紙面により、現在の情報や既往歴等を入院先に伝えたり、逆に報告を受けたりなど、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、ご家族には状況を逐一報告し、方向性もお話して、今後の展開をお互いに検討している。そういった中で、西村病院等の医療機関とも連携を図り、終末期のあり方をチームアプローチでご家族に提案も行っている。	ホームの方針としては重度化・終末期支援は行わないこととしているが、家族が望まればホームにでき得るところまで努めるようにしている。入居時には緊急時の対応について確認や母体特養施設の存在、介護3以上になられたら特養や介護医療院へのサービスの変更について丁寧に説明を行っている。	近隣にある母体特養や系列法人の医療機関と連携が図られていることは、家族や職員にとっても心強いものとなっている。今後も入居者・家族の思いに応えながら、日常を大切にされた支援の継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	GHや併設の小規模多機能に看護師を配置することで、急変等に対応しやすいような人員配置を行っている。また、ミーティングでの勉強会などで事故発生時の対応等の知識を取得できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災避難訓練と、夏季に行われる水防訓練などを通して、災害時にご利用者の安全を守る訓練を行うとともに、マニュアルの作成などを行い、職員の災害時の適切な動きの確認も行っている。	今年度は4月に昼想定避難訓練と、今月末消防署の参加協力を得た訓練が予定されている。4月の訓練で防災関連の業者も参加しており、訓練後にアドバイスを受けている。また、立地上水害対策が求められ、水防マニュアルの作成や訓練も行われている。災害備蓄はリストをもとに3日分が確保されている。	引き続き火災や自然災害について机上を含めた継続した訓練や地域との連携確保に努めたいことが期待される。また、ホーム周辺や居室内のコンセントなど、チェック表に沿った安全確認の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	合同ミーティングでの勉強会等で接遇を勉強したり、ご利用者の人となりを知り、その方の生き方・人格を尊重しながらケアを行っている。	勉強会の中で接遇を含め、入居者の尊重やプライバシーに配慮した支援について共有を図っている。呼称は苗字を基本とし、同姓者や反応などから下の名前でも対応している。同性介助への要望があれば応じており、トイレ介助では「男の人にはさせられんたい！」と言われる女性入居者もおられるようである。身だしなみやおしゃれについては、必要な衣類など家族の協力を得ながら取り組んでおり、自らお化粧をされる方もおられる。髪のカットは月1～2回訪問美容が行われている。	玄関に置かれた訪問者記録簿については、個人情報の点からも個別記入が望ましいと思われる。検討いただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちに寄り添い、その方の意見を尊重しながら、希望を組んだ生活を提供している。また、判断が必要な時はご本人に意思を聞き、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日のスケジュールはあるものの、お一人お一人の意見、体調を見聞きしながら、その方にあった生活を提案している。新型コロナで屋外への外出ができない事が現時点での課題でもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝に洗面台で身だしなみを行う介助を行ったり、ご本人に服を選んでもらったりなど、その人が自分らしい生活を楽しめるように支援を日々行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきの手伝いや食事の後片付け、テーブル拭きなどその方にあった役割を持っていただき、家事に参加していただいている。またご利用者に食べたいものを聞き、メニューに取り入れるなどの取り組みも行っている(パンなど)。	入居者の食べたいものや季節感を取り入れた献立を作成し、食材は専門店からの配達や地域物産館への買い出しなどにより職員が調理している。1, 15日は赤飯の提供や、日曜の朝はシチューとパン(好みで米飯もあり)など定着している献立もある。入居者は以前のような買い物への同行は控えているが、野菜の下ごしらえや味見、茶碗拭きの他、親子丼やおやつ作りなど一緒に調理に関わる機会も持っている。食形態は嚥下力に応じてミキサーやおかゆを準備しており、見守りや必要な介助により安全に食事が楽しめるようにしている。	食事は入居者にとって楽しみの一つであり、引き続き地元の食材も活用しながらホーム内調理が継続されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事摂取量の記載を行い、栄養状態を職員全員で周知している。また、必ず食事時の他、10時と15時に水分を提供し、必要に応じて適宜水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、マンツーマンで口腔ケアを行い、口腔衛生の保持に努めていただいている。また入れ歯の洗浄などが必要な方は介助にて行き、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通して、その方にあった排尿排便パターンを考え、必要な排泄ケアを行っている。できるだけトイレでの排泄を提供しているが、難しい方はパットやおむつの種類まで検討し、提供している。	個々に応じた排泄パターンを共有し、残存機能やプライバシーに配慮した支援に努めている。日中はトイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツや布パンツ、パットの種類など個々に応じて検討している。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、天候の良い日は天日干しも行き、清潔に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事野菜や海藻などの繊維質を提供できるように心掛け、腸の蠕動運動の活性化を図るためにも定時での運動に参加して頂いたりしている。また、服薬が必要な人は西村病院と連携して、便秘薬の処方などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のある方は、実施日を見合わせたりなど、ご本人様のペースを大切にしながら、入浴の提供を行っている。また、体調不良の方などは、その方に合わせて清拭なども行っている。	湯船にゆっくり浸かってもらいながら、週2回の入浴を午前中に支援しているが、汚染時などはその都度対応し、不快なく過ごせるようにしている。身体的に負担のないシャワー浴が主の方もおられ、広い浴室であり冬場は特に、かけ湯などで冷えないよう配慮している。菖蒲や庭先になる柚子を使った季節湯をする際は、数日実施し全員が楽しめるようにしている。「職員とおしゃべりや触れ合いながらのお風呂が楽しみ～！」と話される方もおられるようである。また、使い慣れたシャンプー類を個人で用意し、入浴の楽しみとされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ起き、活動を行ったり、採光も取り入れるなど起きやすい環境も作っている。夜間は照明の光度なども考え、睡眠にすみやかにいれるように働きかけを行っている。不眠の方は精神科と連携し、眠剤の提供も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用前から服薬情報を得て、その情報を職員間で情報共有を行なっている。また、薬の量などが変わった場合もその都度確認し、適切な服薬支援が行えるように努めている。またその効果についても申し送り等で情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や作業などはその方の能力に応じて提供し、ご利用者の嗜好に合わせて、日々の趣味活動で歌番組や時代劇を見たりなど楽しみを持った生活を送っていたりできるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの流行の為、人の多い場所への外出は難しいものの、外来受診などはご家族の協力で行ったり、近隣のイベントに参加したりなど、少しずつ無理のない範囲で状況を見ながら、外出を再開している。	以前のように地域との交流を含めた外出支援は難しいが、家族の協力や状況を見ながら感染対策を施し取り組んでいる。受診や徒歩圏内にある小学校の運動会見学の他、車を使って花見ドライブなども行われている。運動会見学では販売されていたかき氷を持ち帰り、大好評だったようである。管理者は今後も敷地内の散歩など外気に触れる機会の継続や、状況を見ながら外出支援に取り組みたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方がほとんどではあるが、金銭を自己管理されている方もおり、新型コロナで買い物外出は難しいものの、自動販売機にジュースを買いに行ったりなどの支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者のニーズがあれば電話でご家族と話してもらったり、母の日などのイベントの日は手紙をいただいたりして、ご家族との絆をつなぐ交流も図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の意見の他、運営推進会議委員の方々からも意見を聞き、過ごしやすく不快のない清潔な空間を提供できるように働きかけを行っている。作業でできた作品などは掲示板に貼り、楽しみもできる共用空間作りも行っている。	ホーム内には敷地内に咲いた草花や入居者も一緒に取り組んだ季節ごとの壁面などが飾られている。また、廊下には広報誌などが掲示されており、入居者も足を止め写真を眺められていた。外出が難しい中にあるが、職員はユーチューブ等を取り入れながら、リビングで有意義な時間を過ごされている。また、食後や入浴後などはソファなどでゆっくりされるよう声掛けを行っている。	廊下に掲示された広報誌については見やすいように、入居者の目線に配慮することで、より楽しみなものになると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席なども関係性や嗜好を考えた位置に置き、動線も配慮し、過ごしやすいようなご本人の居場所を提供するように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行能力などを鑑みてのトイレから居室までの距離を考えたり、屋内も転倒した際に骨折などを起こさないように転倒マットを敷いたりしています。またご本人の意見を聞きながらレイアウトも考えて過ごしていただいている。	どの部屋からも桜の開花を楽しめる居室は、採光や部屋の広さなど異なりはあるが、ゆっくと過ごせる環境となっている。訪問当日は天候も良く、窓枠に寝具が干されており、日常的な取組であることが聞き取りからも確認された。入居時に馴染みの品について説明を行っているが、「同居していないのでわからない！」など直近の様子が不明な家族もあり、職員がアドバイスをしながら進めている。感染症への対応として換気や掃除、夜間帯の除菌などに取り組んでいる。	主に夜間帯に使用される方のポータブルトイレについては、使用しない日中などはクロスを掛ける等の工夫があるとよいと思われる。取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の能力や嗜好に沿った適切なケアや役割作りを行うなど、お一人お一人の生活での自立支援への働きかけを行っている。		